全ての先進的学生は民学同に結集せよ！

民主主義の旗

民主主義学生同盟校友関西紙

64.1.26
NO.10

大阪府寮代議員会開かる

―書記局は阪大枚方寮へ―

12月15日、大阪外大において府寮運代議員会が行なわれた。七大学11寮へ阪大3、看護学校、市大2、府大、外大、女子大、学大、近大〜の代議員22名、オブザーバー約25名が参加。

府大より草案、阪大より対案が提出され、それをもとに真剣な討論が行なわれた。特に寮自治の把握の観点に討論が集中した。草案の「貧しいものへの勉学を保障し、学生生活の福祉を増進させる学生施設としての寮」という把握に対し、阪大等から、かかる観点からだけでは、寮の自治確立斗争は、プライバシーの権利擁護→寮則にたいする全面的拒否斗争とならざるをえないとの反論が出され、寮の教育的意義が強調された。「寮は教育の機会均等の保証としての学生施設の側面と別に、教育の場としての側面――教育的意義をもっている。寮に自治が保証され、我々が不断の斗争によって守りぬき、成長させてきたのは、まさに学寮には設置目的からくるこの教育的意義――学生の自治能力の養成――そのためのの寮自治の確保――があったからであり、そしてこの面こそより積極的なものであったからである。」（対案）

かかる寮自治の把握の仕方も決定的、基本的な点での討論で最后まで一致せず、採決にうつったがどちらも可決されず、続いて委員長選挙に移り、阪大枚方寮の外大より立候補。選挙の結果、枚方寮の玉井君が11：9、保1、棄権1で選出された。あわせて書記局を阪大枚方寮におくことも決定された。

大学の自治、寮の自治への激しい攻撃が、反民青五派、統一派いずれの側からもこの危機を克服しうる明確な方針が出されず、「争点なき」「混沌の」選挙となった言われていた。社学同等の無能力の極左冒険主義、それに対する統一派の一定の正しい批判にもかかわらず、統一派による京都府学連への分裂活動は、それが「運動の危機」の最大の原因になっているが故に、同学会、教義部自治会において、その指導権を反民青五派がいぜんとして握る結果をもたらした。――――――――

（横関紙一の号がたいへん遅れました。とを深く詫び致します。編集局）

京大自治会後期選挙終る

昨年11〜12月にかけて行われた京大自治会の後期役員選挙は次の結果に終った。

同盟会 委員長 書記（社学同）
副委員長（〃）
執行委員 反民青五派 12
統一派（民青） 11
C自治会幹事委員 反民青五派 11
民青 10

理学部、文自治会 反民青五派の勝利
法、工、教育、農、薬は統一派。
医 反民青五派と社学同、マル同
レフト、社青同解放派、物社同。

今回の選挙は京都学生運動の分裂と危機の深化という状況の中で行われた。だが、反民青五派・統一派いずれの側からもこの危機を克服しうる明確な方針が出されず、「争点なき」「混沌の」選挙となった言われていた。社学同等の無能力の極左冒険主義、それに対する統一派の一定の正しい批判にもかかわらず、統一派による京都府学連への分裂活動は、それが「運動の危機」の最大の原因になっているが故に、同学会、教義部自治会において、その指導権を反民青五派がいぜんとして握る結果をもたらした。

――――――――

府寮連の強力な活動が強く期待される。

書記局＝阪大枚方寮、枚方市茜
（枚方局 四一一―二五三五）

全関西民主主義学生交歓学習会への招待

2/29〜3/2

青年の力、敢闘、情熱、そして自由にたいする深刻な感情は、蘇生した胸中に充満し、

盛魂は飛躍的活動のために沸騰し始めた。

私たちは、新しい年を学生戦線統一の堅い決意と未来に対する強い確信をもって迎えた。私たちにとって何よりも必要なこと――それは強い知性、純なる情熱、絶ゆまぬ研鑽である。私たちの心から望むこと――それは恒久平和と民主主義である。恥ずべき暴力事件を大学の中から追放しよう。不幸な学生運動の分裂に終止符をうとう。独占資本の反動攻撃の強化は、学生運動の統一を無条件に必要としている。

日本の学生運動は過去に輝しい伝統を有している。民主主義学生同盟は、この伝統はとりわけ安保斗争以後の混乱の中で名誉ある統一を保持してきた大阪の学生運動の伝統を継持強化し、全国に拡大することを自らの任務として、昨秋結成された。理想と希望が空しいものとして終らず、実現の道に至る保証は一に科学的政策によって結ばれた大きな組織の力にある。民主主義学生同盟は、そのような組織として着実な前進を続けてきた。

この「ことば」を私たちは今語りかけることができる。

統一――それは、良識ある全ての学友の友情と連帯の回復・強化と、民主的で真剣な討論による政策・方針の一致によってのみ可能となる。

民主主義学生同盟は、春休み中を活用し、一の催しを企画した。それは、政治経済情勢についての明確な展望を科学的な世界観の獲得の把握を得るための健康で、愉快な企画がその内容である。この交歓学習会には、民主主義学生同盟に好意を寄せられている多くの先生方も参加される。

この三日間は、春休み中、もっとも有意義な日々となることを確信している。

この交歓学習会に参加された学友は、冒頭のオラーソフの叫びを、自らの叫びとするであろう。

平和と民主主義を愛する全ての学友諸君の参加を熱烈に呼びかける。

民主主義学生同盟常任委員会

日程

2/29 PM1 寶塚駅集合
「平和共存の新局面と日本経済」小野義彦（市大経教授）PM7〜11 討論

3/1 AM9 オリエンテーション
「学生運動の現状と展望」
報告 高島昭竜（同盟委員長）
PM3 交歓会 東原祐（市大助教授）＋西洋音楽、レコード鑑賞舞
PM7〜11 ファイアー・ストーム（フォークダンス他）

3/2 AM9 「毛沢東・グラムシ」
PM1〜3 討論 森信成（市大助教授）
（交歓会、ファイアストームの内容については、色々楽しい企画を準備中）

場所と費用
勝尾寺（阪急箕面駅下車）徒歩30分
・費用一千円（前払金三百円添えて申し込んで下さい）

主張＝京都学生運動の危機とわれわれの任務

1　全学連崩壊後、最も先進的、戦斗的運動を展開してきた京都学生運動は、昨秋の分裂以降、その危機が現実のものとして語られている。京都の運動が現在、日本学生運動の中で占める位置は極めて重大であり、その今後の動向は、全学連再建への展望を大きく左右するものであろう。それ故に、京都学生運動の危機の原因をその克服の方途を真剣に追求することは、「斗う全学連の旗の下、闘う国際学連の再建」をめざすわれわれの急務である。

2　京都学生運動の危機は、昨秋京都各大学の統一派（＝民青）が従来の「統一戦線方式」から、府学連への分裂活動＝平民学連方式への移行にふみ切って以降急速に進行している。大衆運動の分裂＝学生運動と自治会の権威の低下、大衆の無関心状況＝活動家の「疲労」と政治的エピリズム＝更には、政治的潮流間での暴力沙汰等々！！。二、三年前東京で繰り返され、東京の学生運動を解体に導いた諸現象が、京都において現実のものとしてたち現れている。

去る12月9日の同志社大暴力事件は、京都学生運動の危機の集中的表現である。そして京都には、同大事件を頂点とした数多くの暴力事件に対して、それをいかなる部分が行おうとも、公然と、断固として、自治会活動からの暴力追放を要求し、自治会民主主義の原則を最後まで貫徹する部隊が、現在大衆的に存在しないところに、我々は、"危機"克服の最大の困難さを見い出すのである。

3　日本学生運動の現在の分裂と解体は、何よりも指導部の分裂と民主主義破壊＝その必然的帰結としての暴力沙汰＝によってもたらされたが、京都においても又然りである。

全国的運動の解体が、マル同と平民学連の赤色自治会主義と分裂主義によって主要に特徴づけられるのに対し、京都のそれは、統一派（民青）の「統一戦線方式」から平民学連方式への移行と「ブンド的学生運動」の崩壊が、その主要な特徴をなしている。

"危機"以前の京都学生運動の大衆性と戦斗性の根拠は、主要に次の点にあった。即ち第一に京都府学連の指導権を握る社学同が、大衆の利益を一定程度反映する政策を提起し、大衆運動を推進してきたこと。第二に、多様な活動家を結集する統一派が、平民学連型の分裂主義と身のまわり主義に組せず、運動を下から支え、運動の統一を守ってきたことである。（多くの場合、後者が前者を規定していた）

それ故昨年九月京都統一派が平民学連に屈服し、府学連への分裂活動を始めたことは、京都における"危機"を導くこととなった。そして分裂の深化の中で、「ブンド」的学生運動は、統一派の大衆的「カセ」から解放されて、その論理を純化された形で展開し、大衆からの孤立と官権の集中的弾圧の中で、憲法斗争を待ちくたびれて、崩壊した。

大衆運動の高揚の中で、ブンド的学生運動論の破産が証明され、大衆的に克服されるのではなく、ブンド的学生運動の崩壊が同時に、京都学生運動の危機深化の過程となったのである。

このことは、京都統一派の転換＝分裂方針が、先に述べた京都学生運動の大衆性と戦斗性の主要な根拠を喪失させ、ブンド的学生運動（＝街頭ラディカリズム、極左冒険主義）の自治会＝府学連の名の下での規制なき展開を許した。

それ故ブンド派の大衆からの孤立が、統一派による大衆的支持の獲得とはならず、大衆の政治的アパシーの増大を結果せしめ、またブンド的学生運動論の明白な破産にもかかわらず、統一派に結集する広範な活動の中に、「政治的疲労」＝エピリズム状態がもたらされていることは、分裂という決定的本質的な誤りを犯した京都統一派への当然の「罰」なのである。京都統一派の政治的責任は＝今迄かなり原則的な路線をとってきたが故に一層＝免れえないものである。

4　このような背景の中で行われた京大総学は、C自治会、同学会での社学同ら反民青五派の勝利＝京大での社学同のヘゲモニーの維持に終った。

京大統一派の最大の敗因は、転換＝分裂方針であったことはいうまでもないが、もう一つの敗因として、平和と民主主義の原則において、ブンド派と有効に対決できなかった＝「争点なき選挙」＝既成指導部に有利＝ことをあげる必要がある。

ブンド派が今日における最大の問題である平和共存とそのための斗争を否定している以上、それに対する根本的な批判なくしては、大衆の利益の真の担担者たりえない。とりわけ部分核停成立以降、平和共存の国際的な前進の中で、それに敵対するブンド派の立場を大衆的に暴露し、平和共存、軍縮の思想で大衆を獲得することは絶対的に要請されていたし、また可能であったろう。しかし一般的には平和共存を掲げる京大統一派が、部分核停の今日における決定的問題について、社学同と対決しえなかったことは、大衆の前にいかなる部分が、真の平和の担担者たるかを明らかに出来なかったのである。

要に、京大総学に少からぬ影響を与えた同大暴力事件については、京大統一派は、同大、大阪学の民青の「正当防衛」論とは本質的に異る「事件の責任者は学友に謝罪すべきである」との立場をとりながらも、自治会からの一切の暴力の追放の立場の貫徹＝暴力事件に対するこれまでの彼らの誤った態度、「暴力には暴力を」的傾向の自己批判は当然含まれる＝をなしえなかったがために、社学同の（これまでの彼らによる暴力事件を陰蔽した）偽瞞的暴力反対と反共宣伝をうち破れなかったのである。

5　京都のブンド派と統一派が現在の路線をとり続ける限り、京都学生運動の危機からの脱却は、極めて困難な道であるといわねばならない。しかし我々は、京都学生運動の果京型への移行＝解体を手をこまねいて傍観していることはできない。京都学生運動が解体する時、全学連再建の展望は、はるかかなたへ遠のいてしまうだろう。

我々はこのような現状の認識に立って次の二つの任務をぜひとも遂行しなければならない。

第一は、大阪府学連が関西的さらには全国的規模での指導性を発揮すること、そしてそのための大阪府学連の強化をはかることである。九月以降の大阪府学連の弱体化＝というよりは指導の放棄＝を早急に克服し、春以降の大衆運動の高揚を準備することは、京都の全学友に対する最大の援助となるであろう。

第二に、京都に於て大衆の利益と統一の立場を堅持し、京都学生運動の"危機"克服を真になしとげる大衆的部隊の登場のために、最大限の援助を行うことである。

この部隊が現存する京都のどの潮流の中から生れるものであれ、それとも全く新しく生れるものであれ、その時我々は、京都学生運動の、全学連再建の偉大な任務の中で占める輝かしい役割を語りうるであろう。

〔おことわり〕
民主主義学生同盟発行「同大暴力事件調査報告書」は、常任委員会発行ではなく、阪大G班発行のものであり、又その内容も阪大G班独自の調査によるものではなく、同大学友会の報告を転載したものにすぎません。不用意な発行で学友に御迷惑をおかけしたことをお詫びします。

大阪学生唯研
春期入門講座
市大1号館才七教室
2/18-21
P.M. 1.00～
18日(火)　唯物論と自由　森信成
19日(水)　唯物論と宗教　森信成
20日(木)　唯物論と観念論　森信成
21日(金)　その解釈　下山他